1945

シリーズ とやま20世紀

昭和20年8月2日（木）

B29 70機が来襲。富山大空襲。

富山県への空襲は、この年の5月下旬、伏木港への爆弾投下に始まる。7月に入ると岩瀬地区の工場地帯にも数度来襲、人々は緊張を余儀なくされていた。8月2日午前0時過ぎ、富山市西南上空よりB29の編隊が侵入。無数の焼夷弾や小型爆弾を旧市街一帯に投下した。この日は風が強く、富山駅付近などから上がった火の手は、またたく間に市内をのみつくした。数時間に及ぶ爆撃と猛火により、市内は一部を除いて灰燼と化し、状況は悲惨を極めた。毎年、神通川で開催される花火大会は、この空襲で犠牲になった市民への鎮魂と平和への願いをこめて、1947（昭和22）年に行われたのが始まりである。

上空より見た富山大空襲